

・解答

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	商品券	120,000	他店商品券 現金	100,000 20,000
2	保険料 資本金	200,000 140,000	当座預金	340,000
3	売上	132,000	売掛金	132,000
4	給料	3,000,000	従業員貸付金 受取利息 当座預金	800,000 10,000 2,190,000
5	仕入	300,000	支払手形 当座預金 当座借越	150,000 100,000 50,000

・解説

1. 商品券の精算に関する問題です。

「当店が保有している他店発行の商品券」と「他店の保有している当店発行の商品券」とを交換すると、他店発行の商品券の額面金額を受け取る権利が消滅するとともに、当店発行の商品券の額面金額を支払う義務も消滅します。よって、**他店商品券勘定・商品券勘定**を減額します。

なお、本問のように商品券の額面金額が異なる場合は、別途、現金等で差額を調整します。問題文に「**差額については現金で決済した**」とあるので、現金勘定を20,000円(=120,000円-100,000円)減額しましょう。

商品券に関する問題は、第103回の問4や第104回の問3、第114回の問1、第118回の問5、第120回の問2、第124回の問1、第129回の問3、第138回の問5、第145回の問2でも出題されていますが、本問(商品券の精算)と上記のいずれかの問題(商品券の授受)が解ければ、簿記3級の商品券対策はじゅうぶんです。

2. 資本の引き出しに関する問題です。

まず、店主の生命保険料を会社が肩代わりして支払った場合は**資本の引き出し**として処理します。

なお、本問は問題で列挙されている勘定科目の中に資本金がある(引出金がない)ので、資本の引き出しに関する仕訳は**資本金で処理**します。

★解答①

(借) 資本金 90,000 / (貸) 当座預金 90,000

また、店舗兼住居用の建物の火災保険料250,000円に関しては営業用(事業用)と店主用の2つに分けたうえで、前者を**保険料**で費用処理し、後者を**資本の引き出し**として処理します。

- ・80%は営業用 → 200,000円(=250,000円×80%)は**保険料**で費用処理
- ・20%は店主用 → 50,000円(=250,000円×20%)は**資本金の減少**として処理

★解答②

(借) 保険料 200,000 / (貸) 当座預金 250,000

(借) 資本金 50,000

以上、①②をまとめると解答仕訳になります。

資本の引き出しに関する問題は、第102回の間3や第106回の間4、第107回の間2、第111回の間3、第117回の間5、第122回の間1、第125回の間2、第126回の間5、第127回の間5、第129回の間5、第133回の間3、第135回の間4、第136回の間1、第139回の間4、第145回の間1、第147回の間2でも出題されているので、あわせてご確認ください。

3. 売上戻り・売上値引に関する問題です。

この問題もいつものように分けて考えてみましょう。

まず問題文の「**6 ケースに汚損があったため、1 ケース当たり ¥ 2,000 の値引を承諾**」という売上値引の部分です。掛販売したものを売上値引する場合は、**販売時の逆仕訳**を行います。

★解答①

(借) 売上 12,000 / (貸) 売掛金 12,000

次に問題文の「**10 ケースについては品違いのため返品されてきた**」という売上戻りの部分です。売上戻りに関しても売上値引と同様に、**販売時の逆仕訳**を行います。

★解答②

(借) 売上 120,000 / (貸) 売掛金 120,000

以上、①②をまとめると解答仕訳になります。

売上戻り・売上値引に関する問題は、第100回の間1や第123回の間5、第144回の間1でも出題されているので、あわせてご確認ください。

4. 貸付金の回収に関する問題です。

このような問題は、【貸付金を回収し、給料の支払いに充てた仕訳】と【当座預金で給料を支払った仕訳】に分けて考えましょう。

■貸付金を回収し、給料の支払いに充てた仕訳

まず、**貸付金の貸し出し時にどのような仕訳を切ったか**考えると分かりやすいです。

☆貸付時に切った仕訳

(借) 従業員貸付金 800,000 / (貸) 現金など 800,000

上記の仕訳を踏まえたうえで、「**当該貸付金の返済を受け、それに係る利息を受け取ったが、これをそのまま給料の支払いに充てた**」という仕訳を切ります。

ここでは分かりやすくするために「現金など」勘定を使っていますが、実際に現金のやりとりは行われていないので、解答欄に書かないように注意してください。あくまでも説明の便宜上で使っただけです。

★貸付金を回収し、給料の支払いに充てた仕訳…①

~~(借) 現金など 810,000 / (貸) 従業員貸付金 800,000~~
~~(貸) 受取利息 10,000~~
(借) 給料 810,000 / ~~(貸) 現金など 810,000~~

■当座預金で給料を支払った仕訳

残額については「**当座預金から振り込んだ**」と問題文にあるので、単純に給料を当座預金から支払ったという仕訳を切ります。これは簡単なので問題ないと思います。

★当座預金で給料を支払った仕訳…②

(借) 給料 2,190,000 / (貸) 当座預金 2,190,000

以上、①②をまとめると解答仕訳になります。

貸付金の回収に関する問題は、第 104 回の間 5や第 122 回の間 2、第 132 回の間 1、第 142 回の間 3でも出題されているので、あわせてご確認ください。

5. 仕入取引に関する問題です。

この問題は【約束手形に関する仕訳】と【当座に関する仕訳】に分けて考えましょう。

【約束手形に関する仕訳】

問題文に「**代金のうち ￥150,000 については本多商店を名宛人とする約束手形を振り出し**」とあるので、150,000 円については支払手形勘定で処理します。

★解答仕訳①

(借) 仕入 150,000 / (貸) 支払手形 150,000

【当座に関する仕訳】

当座取引の処理に関しては、【当座預金勘定と当座借越勘定を使う 2 勘定制】と【当座勘定のみを使う 1 勘定制】の 2 つがありますが、この分野は日商簿記検定 3 級の頻出論点なので、どちらの処理も必ず押さえておきましょう。

本問は、問題文で与えられている勘定科目の中に**当座勘定がない（当座預金・当座借越勘定がある）**ので、2 勘定制を採用していると判断します。

■当座預金勘定と当座借越勘定を使う 2 勘定制（解答）

当座を増加させるような取引（商品の売上など）の場合は、まず当座借越があるか確認します。当座借越があればそれを相殺したうえで残りを当座預金勘定に計上し、ない場合は全額をそのまま当座預金勘定に計上します。

逆に、当座を減少させるような取引（商品の仕入など）の場合は、まず当座預金の残高があるか確認します。当座預金の残高があればそれをゼロになるまで減額したうえで残りを当座借越勘定に計上し、ない場合は全額をそのまま当座借越勘定に計上します。

本問は、問題文に「**当座預金残高は ￥100,000 であった**」とあるので、まずは当座預金勘定を減額し、それでも足りない 50,000 円（=300,000 円 - 150,000 円 - 100,000 円）を当座借越勘定で処理します。

★解答仕訳②（当座預金勘定と当座借越勘定を使う 2 勘定制）

（借）仕入 150,000 / （貸）当座預金 100,000
 （貸）当座借越 50,000

以上、①②をまとめると解答仕訳になります。

■当座勘定のみを使う 1 勘定制（参考）

参考までに 1 勘定制による場合の仕訳も確認しておきましょう。当座に関する仕訳は全て「当座勘定」を使って機械的に処理するだけなので 2 勘定制よりも簡単です。

☆当座勘定のみを使う 1 勘定制の仕訳（参考）

（借）仕入 150,000 / （貸）当座 150,000

当座取引に関する問題は、第 100 回の間 2や第 103 回の間 5、第 104 回の間 2、第 105 回の間 1、第 121 回の間 5、第 122 回の間 2、第 125 回の間 5、第 129 回の間 1、第 133 回の間 1、第 134 回の間 3、第 135 回の間 5、第 136 回の間 5、第 137 回の間 1でも出題されているので、あわせてご確認ください。